



紫式部公園（越前市）

源氏物語の作者 紫式部が越前国司となった父・藤原為時とともに訪れ、一年余りを過ごしたといわれています。これを記念してつくられた紫式部公園は、全国でも珍しい寝殿造の庭園で、精密な時代考証のもとで作庭されており、平安絵巻に描かれた雅な世界がリアルサイズで体感できます。

理 念

認知症高齢者の方々の人間的尊厳を尊重し、こころ温まる医療と地域から愛される病院を目指します。

基本方針

- ① 認知症疾患の特性を踏まえ、一人ひとりに対する医療と温かみのある看護の提供
- ② 認知症に関する介護教育と啓発活動の充実
- ③ 地域の医療・保健・福祉との一層の連携と協働
- ④ 活き活きとした働きがいのある職場づくり
- ⑤ 職員一人ひとりが健全な病院運営を努力

患者様の権利に関する宣言

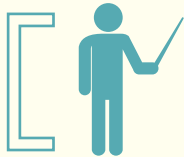
- ① 良質な医療を平等に受ける権利
- ② 選択および自己決定する権利
- ③ 意識のない患者様および法的能力のない患者様の権利
- ④ 十分な説明を受ける権利
- ⑤ 個人情報およびプライバシーを保護される権利
- ⑥ 個人の尊厳を守る権利
- ⑦ 通信・面会を自由に行う権利

INDEX

表紙 福井の名所探訪⑨
紫式部公園（越前市）

- P2 すこやか講座
「免許返納、どうすべき？
～上手にいく説得方法～」
- P3 家族は今「大切だからこそ」
- P4 デイケアだより
- P5 トピックス
「講演会報告」
「アルツハイマー月間」
- P6 「就任挨拶」
- P7 「就任挨拶」
「栄養管理室からのお知らせ」
- P8 令和6年度 専門職研修案内

すこやか 講座



シリーズ 免許返納、どうすべき？

～上手くいく説得方法～

高齢ドライバーの親への説得は、自分一人に留めず、**家族みんなの問題**としてとらえることが重要になります。大切な家族を「**加害者にも被害者にもしない**」ため、その心に寄り添う説得方法をいくつかご紹介したいと思います。

フィーリング・グッド効果の利用

空腹ではない、心地いい場所にいるなど、気分よく話ができる環境で

- ご家族が説得に応じやすい心理状態になる状況や環境を計画的に作ってみましょう。成功例としては、誕生会や結婚記念日、お孫さんもお盆やお正月など、家族が集まれるお祝い気分の楽しい雰囲気こそチャンスです。そこに美味しいお料理や大好きなお酒もちょっとあるとさらに良い効果となります。



自分の老いを話題に出す

- いきなり自主返納の話を持ち出しても、ご本人にとっては自分の老いをネガティブに指摘されたのと同じ事として受け止めがちなです。謙虚な態度で「自分も決して完全ではなく、よく失敗する」と前置きすると、それほど不愉快な気持ちにならずに話を聞いてくれます。

最近尿漏れで困ってるんだよね…親父はどうだった？



実はな…

～ここから始める返納の話題～

感謝と愛情を伝える

- よく言ってしまうがちな「もし事故を起こしたら家族みんなに迷惑がかかる」という言葉はよくありません。運転者一人ひとりに運転にまつわる思いと誇り、そして人生があります。心配される気持ちを受け入れやすくしてもらうために、まずは感謝の言葉を伝えましょう。

色々な場所に連れて行ってもらえて、たくさんの思い出ができたよ



安全運転のおかげで、元気に暮らせているよ



※この講座は、九州大学大学院教授・日本交通心理学会副会長 志堂寺和則氏監修『大切な親に、これなら「決心」させられる！免許返納セラピー』の書籍の一部を引用させていただいております。本書籍は当院外来にて貸し出し可能です。



「大切だからこそ」

○・E様ご家族様

私がこの家に来てから約5年。夫を通しておじいちゃんに挨拶をした日の事は、まだ新しい記憶として心に残っています。当時88歳だった義祖父は今よりもずっとしっかりした口調で『おう。よく来てくれたなあ』と言。目も力強く、全体的に逞しい印象でした。育児中ということもあり他の家庭よりも家で過ごす時間が多いものですから、自然と義祖父との接点も増えて、一緒に買い物へ出かけたリ話を聞くことが日常となっていました。同じ話題を繰り返したり、直前の行動を忘れることは前からありましたが、高齢だとそんなものなのかな？と特に気にせずに過ごしていました。

90歳を超えたあたりから義祖父の言動に不安定さが見られ、物忘れの他に昼夜逆転も加わり、次第に食事の管理も家族では難しく暴食に近いものとなっていました。デイサービスへ通っていても日中は横になって休む事が多く、その分夜に目が覚めてしまい眠れず、そんな生活が2～3年続いたせいか排泄の問題やイライラが止まらず叫ぶといった症状も出てきました。家族間では何とかしようとしても義祖父を抑えられず激しく衝突する事が日に日に増え、その度に小さな子供達の耳を塞ぎ、義祖父から離れた部屋へ急いで連れて行くといった事もありました。あの時は私達夫婦や義母も苦しい思いでしたが義祖父が一番辛かったのではないかと思います。家長として長年頑張ってこの家を支えてきたのですから、苦労をした分、家や家族への想いは強く、それが裏目に出ているような現状でした。

家族全員で仕事に育児、義祖父の介助や地域の事に対応してきましたが手が回らず困っていたところに在宅ケアマネージャーさんにすこやかシルバー病院さんを紹介していただきました。入院する事で生活環境を整え、徐々に落ち着きを取り戻していると担当看護師さんや相談員さんから伺っております。家ではどうしようにも出来なかった事を、丁寧に聞き取り直ちに解決してくれたことに感謝しております。今後は、面会を通し義祖父の「今」をしっかり把握して、家族みんなでこれから先の事を考えていこうと思います。



デイケアだより

デイケアつどいでの活動をご紹介します！

デイケアで最近行った
行事をご紹介します😊

和紙の風鈴づくり

すき紙や半紙を使用し、準備で材料を細かくちぎる作業から利用者の皆様に手伝っていただきました。細かい紙を小さな風船に貼り付けていきます。「かわいいね」「うまく貼れん」などおしゃべりしながら作成しました。完成後はご自宅に持ち帰っていただきました。目で見て季節を感じ、楽しんでいただけたと思います。



紙コップ集めゲーム



スタッフ手作りの紙コップ集めゲームです。赤・青・緑のうち、自分の色のシールの貼ってある紙コップを、棒を付けた紙コップで重ねながら集め、制限時間内に集まった数を競います。紙コップの数は合計150個…😱!「あお、あお、あお」と口にしながらい間違えないように注意して紙コップを集めている方もいました。終了後には「腕がだるなったわ」と話しながらも、笑顔で一戦交えた相手と握手を交わし、相手をね



ぎらう場面もありました「がんばれー」と応援する声や、高得点が出た時の驚きで盛り上がりました。皆さん集中して探しながら腕を動かし、目と手の動きのトレーニングになったかと思います。

🌻 デイケアの廊下を、季節ごとに飾りつけています

元々真っ白な廊下でしたが、男女問わず、細かな作業がお好きな方に休憩時間の合間に協力してもらい、季節ごとの飾り付けをしています。「私は池坊でお花習ってたよ」「子供の時は手伝いばっかさされたわ」「この歌流行ったね」「ここはこうするといいいんじゃない？」など、いつもおしゃべりを楽しみながらワイワイ作成しています。

病棟の患者様やスタッフが通る際に「きれいね」「夏だね～」と話している様子がデイケア室まで聞こえ、作成している方たちの励みになっています。これからも楽しんでいただけるようにがんばっていきます。



講演会報告

「あなたの望む生き方を実現するために
～人生会議の意義と支援～」

会田薫子先生の講演を拝聴して

9月23日、福井県生活学習館において東京大学 特任教授 会田薫子先生をお招きして講演をしていただきました。テーマは**人生会議（ACP）**。もしもの時のために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みをACPと呼びます。認知症になっても安心して自分の意思が尊重されるためには何が必要か、考えさせられる講演でした。公演を拝聴された方々より「家族間でも看取りでは意見が合わない事があり、早めから『本人の意思』を聞いていきたいと思います」「自分たちの安心のために看取りの時は点滴をお願いしていたが、本人の尊厳が大切ということが講演を聞いて考え方が変わりました」「医学的知識がないので点滴をすれば楽かと思っていましたが逆なんですね」と日ごろからの身近な人との話し合いが大切であること、それを書き留めていくことの重要性を認識し、終末期医療に関して考えさせられる感想もみられました。



我々医療や介護従事者が常に感じている、ご本人の望む人生や看取りについて考えていく一つの指針となりました。



アルツハイマー月間

9月21日は世界アルツハイマーデーです。それに伴い、当院でも9月をアルツハイマー月間とし、今年もいくつかの取り組みを行いました。外来の患者様やそのご家族に対し、アルツハイマーについて理解を深めていただけるようチラシの配布や、当院での介護教育研修を受講された方に対しては認知症に関する内容のパネルの掲示。職員はおそろいのオレンジTシャツを着用しアルツハイマー月間を盛り上げました。

また、今年からは認知症関連の本の紹介を始めました。自分や家族のためにより認知症について理解を深めたい方にむけておすすめの本を紹介しています。これらの本は外来待合室で貸し出しも行っていますのでお気軽に受付、または外来看護師へお声掛けください。これからも、アルツハイマー月間に限らず、認知症への理解を深めていただけるよう啓発活動に取り組んでいきたいと思っています。



看護師長・副看護師長就任挨拶



西病棟 看護師長
帰山 知子

このたびの異動で、6月から西病棟で勤務しております看護師長の帰山知子と申します。

先日、ある患者様と話をしながら歩いていたところ、患者様から「看護師さん、どこか悪いの？」と尋ねられました。私は以前から少々膝を痛めており、その日は普段より痛みが強かったのです。私は正直に「今日は少し膝が痛い」と返事をする、と患者様が「あら、可哀想に、大丈夫？看護師さん、体大事にしての」と声をかけてくださいました。その優しい言葉に、私はとても温かい気持ちになり、膝の痛みも和らぐひと時となりました。

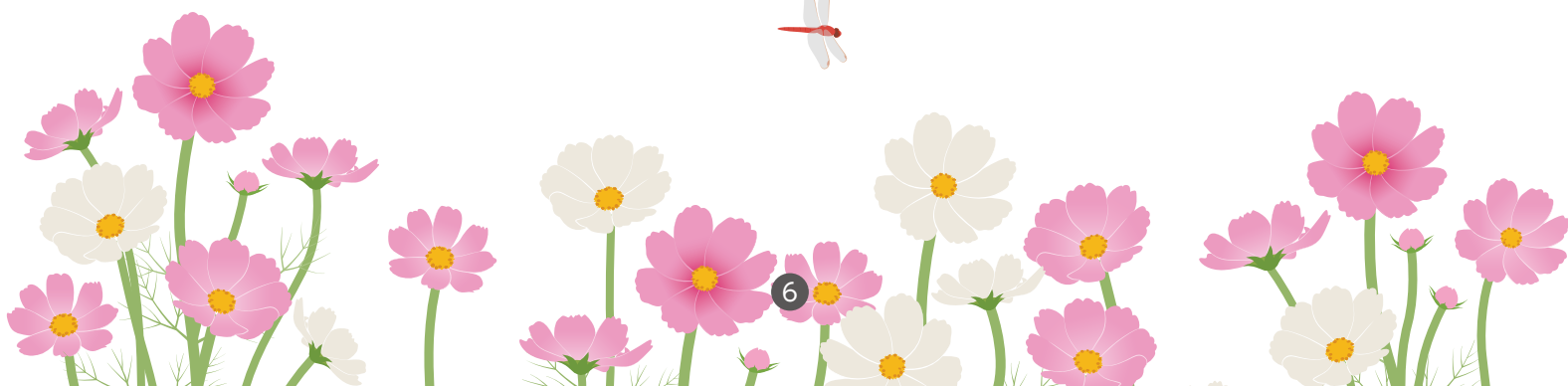
優しい言葉や人を思いやる気持ちは、その人の心を温め、元気にする強い力があると思います。看護部の理念として『患者様の今を大切に ころこる温まる看護・介護を提供します』を掲げております。この理念のもと病棟スタッフとともに、患者様の心に寄り添い、ころこる温まる看護・介護を提供していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします



外来 看護師長
荒井 岐枝

この度6月よりデイケアに異動になりました看護師長の荒井岐枝です。すこやかシルバー病院に就職してから長年病棟で勤務していましたので、新しい環境に慣れるか不安でいっぱいでした。デイケアは医師の指示のもと看護師や精神保健福祉士、作業療法士とともに連携しながら取り組んでいます。病棟は継続して患者さんの状態を観察できるのに対して、デイケアは利用している時間のみです。そのため、ご家族からの情報や活動中の様子を見ながら総合的に捉える必要があります。病棟とは違った視点で観察、アセスメントしていく必要がありますが、長年の病棟での経験を活かしながら、デイケアの一員として頑張っていきたいと思っています。

利用者さんより「今日も一日よろしくね」と言われ、私も皆さんから活力をいただいています。利用される皆さんが笑顔で過ごせるよう、私自身も楽しみながらスタッフ一同協力し励んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。





東病棟 副看護師長
清水 宏隆

今年6月より東病棟副看護師長をさせていただくことになりました清水宏隆です。

私は27年間看護師として病院で仕事をしてきて認知症の方とも関わりを持ってきました。当院に入院されている方は長い人生を掛けて家族を支え、懸命に家族を守って生きてきた方々だと思っています。病院のカルテには患者様の情報として病歴や性格などを含めた人生を数行にまとめられていますが、この数行の文にどれだけの楽しかったことや辛かったこと、我慢して耐え抜いてきたことが含まれているのか。それは本人にしか分からない事ですが、その人生の最後のステージに認知症という病気にかかり、今まで守ってきた家族や友人などから避けられたり怒られたりと尊厳が保たれずに余暇を過ごす結末では、寂しく辛い人生になってしまうと思います。その方の尊厳を保つように認知症の症状のある今だけを見るのではなく、その人の人生背景をふまえて関わっていき、その人がその人らしく人生の最後まで充実した時間を持てるよう家族と共に認知症について考え、その方の周囲の環境を整えるサポートをしていく事を大事にして看護に取り組んでいます。また、他の病棟スタッフに対してモデルとなるような看護を行い、病棟全体の看護の質が向上するよう努めていきます。

栄養管理室からの お知らせ



当院じまんの行事食をご紹介します!



9月 敬老の日

食事をより楽しんで頂けるように、季節感や彩り、食べやすさに配慮した「行事食」を定期的に提供させて頂いています。

おしながき

- 🍁 栗赤飯
- 🍁 鱈の紅葉焼き
- 🍁 茶わん蒸し
- 🍁 炊き合わせ(さつまいも・南瓜・高野豆腐など)
- 🍁 梨



※9月13日(金)に提供させて頂きました

栄養士を目指している学生さんが、実習に来られました。行事食で使用する食材に関するクイズを準備して頂き、患者様が理解しやすく楽しめるよう工夫されていました。



福井県立すこやかシルバー病院 研修案内

【令和6年11月・12月】
専門職の方を対象にした研修



受講費
無料

定員はすべての研修48名です。お申し込みはQRコード、当院ホームページからお願いします。

研修名	開催日	研修時間	主な研修内容	講師	申込QRコード
39 食べる機能の低下と 取り戻す訓練	11月7日(木)	14:30～ 17:00	● 食べる機能の低下とは ● 食事形態変更のタイミング ● □・のどの機能を取り戻す訓練 ● 摂嚥嚥下ケアにおける多職種連携のポイント	愛知学院大学 健康科学部 健康科学科 教授 牧野日和氏	
40 看取り期における 食支援 ～本人の希望を尊重した 「お食い締め」のあり方～	11月8日(金)	9:30～ 12:00	● 「最期まで食べる」ことの意義 ありがちな誤解 ● 看取る側のけじめ・折り合いと しての支援 ● 看取り期と回復期における食支援 の違い ● 「お食い締め」の事例紹介	愛知学院大学 健康科学部 健康科学科 教授 牧野日和氏	

※研修39と40は2回で1つのテーマとなっております。
39と40を受講されるとより深い学びになります。

研修名	開催日	研修時間	主な研修内容	講師	申込QRコード
41 身寄りがない人の 入院及び医療に係る 意思決定が困難な人 への支援	11月13日(水)	14:30～ 17:00	● 身寄りがなく意思決定が困難な場合 の入院、入所に係る場合の課題と支 援方法について ● ガイドラインを用いて各コメディカル に期待される役割について ● 身寄りがない人の入院及び医療に係 る意思決定が困難な人への支援の事 例を用いて法的ポイント	健康科学大学 看護学部 助教 山崎さやか氏	
42 認知症高齢者の 終末期ケア	11月18日(月)	13:30～ 16:30	● 認知症本人・家族の意思決定支援 ● その人らしく生きるための 意思の尊重、尊厳を保つケア ● 認知症高齢者の身体や心の苦痛に 対するケアのあり方について	群馬大学大学院 保健学研究科 医学部保健学科 教授 伊東美緒氏	
43 認知症高齢者の コミュニケーション 障害の原因と対応 ～言語聴覚士の視点から のアプローチ～	11月26日(火)	13:30～ 16:30	● 認知症高齢者のコミュニケーション 障害の原因 ● 認知症高齢者の認知・聴覚・ 発声発語の関係性 ● コミュニケーション障害のある方 への対応方法のポイント ● 残された能力を活かせる対応	福井医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 准教授 保屋野健悟氏	
44 認知症高齢者の 転倒予防	11月29日(金)	13:30～ 16:30	● 認知症の特徴的症状と転倒の関連 ● 認知症高齢者の転倒予防対策 ● 認知症高齢者の転倒リスク管理と 組織づくり	京都橘大学 看護学部看護学科 教授 征矢野あや子氏	
45 「怒り」のある方へ の対応	12月5日(木)	14:30～ 16:30	● 怒りを抱く方の背景にある物とは ● 怒りに対するアセスメントポイント ● 怒りのある方へのアプローチの方法	福井県立病院 精神看護専門 看護師 山口達也氏	